

Japa Newsletter (毎月1日発行)

～社会課題 X イノベーション X 地方創生～



INDEX

1. コラム「論点提起」：能登半島にみる超高齢社会における復旧・復興や如何
2. キュレーション「関連情報&Topics」：社会課題×イノベーション×地方創生
～「地方創生メルマガ」(週刊)への移行のご案内～
3. 寄稿：変化多き時代、どう生きるか
三谷晃一 NPO 日本キャリア・コンサルタント協会(JCCA) 前理事長
4. 解説：コンパクトシティの是非
5. 読者の声
6. Blog 仕組みの群像：羽田空港衝突事故にみるスイスチーズモデルとレジリエンス
7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月のpickup 情報
8. Japa 及び連携団体からのご案内
9. つばやき (編集後記に代えて)

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人（芝原 靖典）による。

※ 本 Newsletter は Japa 日本専門家活動協会が毎月1日に発行する会員及び関係者向けの newsletter です。3ヶ月後に当協会の HP <https://www.japa.fellowlink.jp/newsletter> にて公開しています。

第19回 Japa フォーラム【意見交換会】 開催案内・参加申込受付中！

- 開催日時：2024年2月22日(木) 17:15～21:00
- 開催場所：NEC 三田ハウス芝俱樂部 3階 305号室 (住所:東京都港区芝五丁目21-7)
- 討議テーマ：第二弾 専門家・連携団体のコレクティブインパクトをいかに興すか！
- 参加申込：Japa 日本専門家活動協会の HP <https://japa.fellowlink.jp/> より、**事前登録**をお願い致します。[参加費：会員3千円、非会員4千円]

1. コラム「論点提起」：能登半島にみる超高齢社会における復旧・復興や如何

新年早々の令和 6 年 1 月 1 日 16:10 マグニチュード 7.6 (最大震度 7) の逆断層型の地震 [令和 6 年能登半島地震] が発生し、津波 (最大遡上高 5.8m)、地盤隆起・移動 (最大 4m 程度の隆起、最大 2m 程度の西向きの変動)、液状化 (噴射、沈下) が発生し、大きな被害をもたらしている。地震はその後も続き (M7.6 の地震の直後からの地震活動は北東-南西に延びる 150 km 程度の範囲に広がっている)、大雨・大雪にも見舞われ、さらなる家屋倒壊、土砂災害の危険性が高まっている。地域/集落によっては二次避難が始まっている。

資料：気象庁 令和 6 年報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/press/index.html?t=1&y=06>

令和 6 年能登半島地震に関する情報 政府 地震調査研究推進本部 (通称：地震本部)

https://www.jishin.go.jp/main/oshirase/20240101_noto.html

令和 6 年能登半島地震の評価 令和 6 年 1 月 2 日 地震調査研究推進本部地震調査委員会

https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2024/20240101_noto_1.pdf

専門家によると、今回の地震での課題として、10 個のキーワード「①複合災害、②時間外、③孤立、④ライフライン途絶、⑤デジタル喪失、⑥被害把握遅滞、⑦避難所環境、⑧行政・医療・福祉機能、⑨高齢化と過疎、⑩事前防災」を指摘している。

出典：能登半島地震で見えてきた 10 個のキーワード 福和伸夫名古屋大学名誉教授、あいち・なごや強靱化共創センター長 1/22(月) YAHOO! ニュース <https://tinyurl.com/yq4sfc7l>

この中の「孤立」「高齢化と過疎」「事前防災」は、今後の災害からの復旧・復興に重要なキーワードと思われる。「孤立」には、「半島」のように地理的な特性からくる非常時における交通・通信の遮断による孤立がある。今回の能登半島地震はまさにそのようなリスクを顕在化させた。加えて、家屋、生活インフラ、産業インフラ (漁港) の被害は、生活の糧、生活エリアの変更を含む厳しい選択を迫ることが予想される。避難・移転は自らの意思に反するものであり、そうした生活環境の激変が繋がりのあったコミュニティとの繋がりの遮断をもたらし、社会的孤立・孤独を惹起することが懸念される。場合によっては、関連死に至る。

能登半島を含む国内の 23 の半島を対象に、半島振興法 <https://tinyurl.com/yq6a4voc> は「地域活性化」をその目的に謳っているが、その前提として、リスクをきちんと認識した「レジリエント (適応力)」の確保が不可欠である。地方は元々「高齢化と過疎」が進行しており、今後さらに進むことが確実化されている将来に向けて、被災後の高齢者の生活維持、コミュニティ維持が果たして従来どおりに可能であろうか。従来どおりの復興を目指すことが果たして適切であろうか。孤立、高齢化、過疎は半島に限らず、東京を除く日本全国の将来像 (消滅自治体の増加、国土の森化) でもあり、「救命」後の「復旧」「復興」のあり方を今一度、感情論、願望論を排除し、真剣に検討しておく必要があるのではなかろうか。

人口減少、超高齢社会、災害激甚化、そして地場建設事業者減少を想定した復興計画 (道路啓開計画を含む「事前防災」) が問われているが、はたして迅速に事前準備できるか如何。

2. キュレーション：社会課題×イノベーション×地方創生

～「地方創生メルマガ」（週刊）への移行のご案内～

本コーナーについては、毎月1回では、情報鮮度が落ちること、また、本紙幅の関係上、掲載情報が限定的になる事等を勘案して、本年より、毎週1回週末配信をめざして、新たに、「地方創生メルマガ（地方創生関連レポート情報）」として切り出し、移行致します。

関連するテーマとして、「地方創生」の背景(時代環境)、課題、課題対応の手段、そして地方創生の先の日本創生に至る一連の視野からの関連レポートを情報収集し、地方創生に関わる全国各地の多様な分野の専門家、関係者に資するようにキュレーションし、配信します。

【地方創生メルマガで掲載するテーマ】

時代環境 ⇒ 社会課題 ⇒ 地域課題
⇒ 対応手段（知・技術・仕組み・イノベーション）
⇒ 地方創生 ⇒ 日本創生

「地方創生メルマガ」は、インターネット上で無料公開されている「地方創生関係レポート」を紹介するメルマガ（毎週末1回配信）です。紹介するレポートは、発行者自らの掲載依頼によるものに加えて、編集者側にて有益と思われるレポートについては掲載依頼なしでも掲載します。掲載依頼も、購読希望者（mail 配信希望者）もいずれも無料です。

地方創生メルマガのバックナンバー（創刊号 2024/01/1～2024/01/06 以降）は、下記にてアップ（アーカイブ）しています。

- ▶ バックナンバー <https://www.japa.fellowlink.jp/infomation-local-value-creation>
- 地方創生メルマガ（2024/01/21～01/27 地方創生関係レポート情報） No. 004
- 地方創生メルマガ（2024/01/14～01/20 地方創生関係レポート情報） No. 003
- 地方創生メルマガ（2024/01/07～01/13 地方創生関係レポート情報） No. 002
- 地方創生メルマガ（2024/01/01～01/06 地方創生関係レポート情報） No. 001

地方創生メルマガの購読を希望される方は下記よりお申込ください。

- ▶購読申込 <https://www.japa.fellowlink.jp/subscription-application>

また、地方創生メルマガへのレポートの掲載を希望される方（行政、団体、企業 等）は下記より掲載申込をお願い致します。

- ▶掲載申込 <https://www.japa.fellowlink.jp/listing-application>

また、応援、寄付、広告掲載のお申し出については「お問い合わせ」よりご連絡ください。

- ▶お問い合わせ <https://www.japa.fellowlink.jp/contact-japa>

3. 寄稿：変化多き時代、どう生きるか

NPO 日本キャリア・コンサルタント協会(JCCA) 前理事長 三谷晃一

(1) 専門家としてのキャリア

NPO 日本キャリア・コンサルタント協会 (Japan Career Consultant Association) は、2004年の発足以来「キャリアコンサルティング」の歴史とともに歩んでまいりました。

今年の 11 月に 20 周年を迎えるにあたり、創立メンバーとして感無量のものがあります。「キャリアコンサルティング」は、2016 年に国家資格となり、キャリアコンサルタントを名乗れる人がかなりのスピードで増えてきました。その必要性和有効性は各現場で認識され徐々にではありますが、ようやくこの資格の認知度が上がってきたように思います。

(2) キャリアコンサルタントとしての思い、使命

キャリアコンサルティングは世相の変化を敏感に反映します。この 3 年、「新型コロナウイルスの感染拡大」、「ロシアのウクライナ侵攻」や「イスラエルのガザ侵攻」が世界を大きく変えました。昨日「YES」としていたことが翌日には「NO」となってしまういわゆる「諸行無常」の世界がたった今、現出しています。

こんな時に、私たちはどう働いていけばいいのでしょうか、どう生きていったらいいのでしょうか？ 何を道標にしていったらいいのでしょうか？ 一人ひとりの人間が抱えている共通の悩みがここに 있습니다。私は、こんな時こそ原点に戻り、混乱している頭の中を整理してみることが大切ではないか、と思います。

そこで、真っ先に思い浮かぶのが、「いつでもどこでも誰でもが学べ、やり直しができ、その人らしく生きる社会の実現」という JCCA のミッションです。これは我が団体の恩師故木村周先生（元筑波大学教授）が提唱された言葉です。この変化多き時代に今こそ私達 JCCA は原点に戻り、この言葉の意味をかみしめ実践していくことが私たちの進むべき道、使命だと思っています。

会った時に「縁」が始まり（いつでも）、生活のすべての場面がキャリアの生きた勉強場所であり（どこでも）、人種や性差別などの偏見や先入観が一切なく（だれにでも）平等に学習の門戸が開いているのが「キャリア」の世界です。

(3) キャリアコンサルタントとして伝えたいこと

リストラされた会社員、大病を患った会社員、ひとり親の母親・父親、障がい者、生活困窮者、生活保護者、LGBT などを含む社会から弱者と言われている人たちが、一度や二度の失敗で人生に失望してしまうことなく、生きがいと潤いをもって生きていけるように。その人らしい生き方を見つけ自立して自分主役のシナリオをつくりそれを実践していけるように。何回もゴールや道程を変化に対応して書き換えていけるように。私達 JCCA は、このような

人たちが自分の人生を自分でデザインし実践していけるように、キャリア形成やキャリア設計を継続支援し、健全な社会の実現に邁進しています。

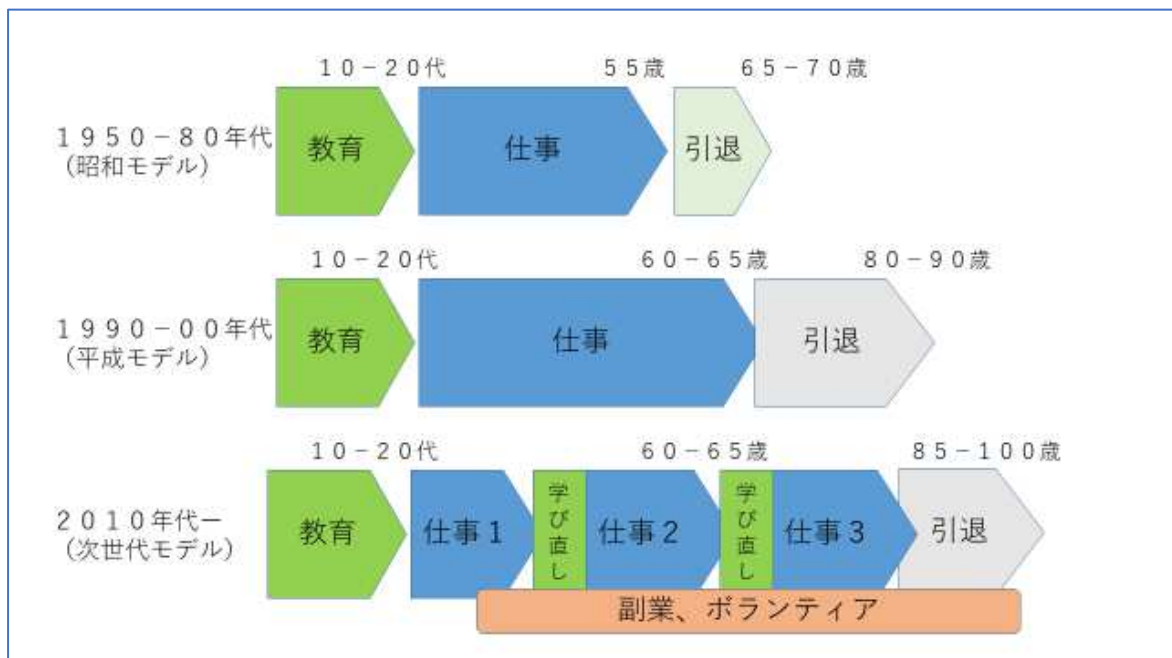
「キャリアコンサルティング」は職業の選択だけではなく、人生全般を視野に入れ「生き方そのもの」をどう表現するか、という「ライフキャリア」の視点をも含む相談業務です。そして、それは1対1の個別対応から、組織などに対して能動的に「環境を変える」という影響力を持つことを必要とされております。JCCAは前述のミッションを軸に、今後も質の高い「キャリアコンサルティング」を実施・展開してまいります。

アフターコロナ、人生100年時代、AI時代と言われ、「一人ひとりの生き方が確実に問われる自主性の時代」が到来しました。このような背景および考え方により、テキスト「新しい就職活動の仕方一竹の節を作ろう一改訂7版」を2023年10月発刊致しました。こんな世の中だからこそ、この「竹の節」改訂7版が世の人のお役に立てるものと信じております。

テキストのポイントは次の通りです。

テキストのポイント1

下図は、昭和、平成、そして次世代のキャリア（人生）モデルです。まず1950-80年代の昭和モデルでは、20歳前後から仕事をはじめ、55歳頃に引退し、65-70歳で寿命を迎えました。次の1990-2000年代の平成モデルでは、寿命が延び、会社の定年も延びたため、60-65歳まで働く人が増えました。いずれのモデルも、多くの人は、一つの仕事を数十年続ける場合が多かったのです。



しかし、現在は、グローバル化やテクノロジーの進歩により、会社や仕事の変化が激しくなってきました。個人は60年近く働かなければいけないのに、会社の寿命は30年と言われております。仕事の内容も、どんどん変化しています。

そこで、人生 100 年時代には、次世代モデルのような考え方が必要になります。人生が、教育・仕事・引退の「3ステージ」だったものが、「マルチステージ」になっていきます。つまり、ある仕事を経験した後、「リスキリング（学び直し）」をして別の仕事に就く、または仕事をしながら、自分の仕事のさらに難しい側面を学んで「技能の向上」をめざす、というようなことを、複数回、繰り返していくイメージです。副業を持ったり、ボランティアや地域活動で、仕事とは別のキャリアを持ったりする人も増えるでしょう。

一人ひとりが、長い人生を充実させるために、時代の変化に合わせて、自律的かつ柔軟に、自分のキャリアを考えていく必要があるのです。

テキストのポイント 2

自己理解（第 1 章）が非常に大切で、具体的な方法（チェックシート類）を記載。

価値観の把握

順位	価値観	○ 大切にしたい意味	× 犠牲にした意味
	時間	時間的余裕を持つ。自分で自由に使える時間を持つ。時間的に自由になる。	時間的拘束が増える。自分の自由な時間が少なくなる。
	視野	経験や知識を広げる。視野を広げる。知識を豊かにする。	視野を広げる機会を失う。知識が増えない。新しい経験ができない。
	お金	金銭的報酬を得る。経済的に安定する。収入・資産を増やす。	経済的不安定になる。収入・資産が減る。収入・資産を増やす機会を失う。
	出世	地位が上がる。名声を得る。	出世できない。今までの地位・名声を失う。
	ストレス	ストレスを受けない。ストレスや不安が減少する。気楽な状態でいられる。心理的圧迫を受けない。	ストレスを受けてもよい。ストレスや不安が、高まってもよい。心理的圧迫を受けてもかまわない。
	安定	今の身分や立場を守る。社会的に認められた組織の一員になる。	立場や身分を気にしない。所属する組織がなくてもかまわない。
	人間関係	人間関係が広がる。人脈づくりができる。	人間関係が狭くなる。人脈ができない。今までの人間関係を失う。
	家族	家族と一緒にいる時間を増やす。家族の世話をすることができる。	家族と一緒にいる時間が少なくなる。家族の世話ができない。
	自分らしさ	自分の個性を発揮できる。自分のやりたいことを大切ににする。	個性の発揮を犠牲にする。自分のやりたいことができない。

テキストのポイント3

相手理解（第2章）も大切で、リスキリング（学び直し）などを記載。

「リスキリング（学び直し）の大切さを知ろう」

職業能力の再開発や再教育を指す「リスキリング（学び直し）」。

第1章でも仕事の内容がどんどん変化していく中で、ある仕事を経験した後、「リスキリング（学び直し）」をして別の仕事に就くことを繰り返していく、キャリアを積んでいく大切さが書かれています。

特に、近年はデジタル時代や DX 時代の人材戦略に不可欠なものとして取り上げられることが多く、就職・転職希望者や、従業員がこれらの新たな知識・スキルを習得するリスキリング（学び直し）への注目が高まっています。

□リスキング（学び直し）に役立つ主な検索サイト

マナビDX <https://manabi-dx.ipa.go.jp/>



DX を推進する人材に必要な様々なスキルが学べる講座が検索できるサイト。経済産業省と情報処理推進機構(IPA)が運営しています。デジタル人材育成を目的としており、民間事業者や大学などが実施するオンライン講座や実際の講習など400以上の講座情報が掲載されています。利用者登録もログインも必要ありません。キーワード検索して講座を探すことが可能です。

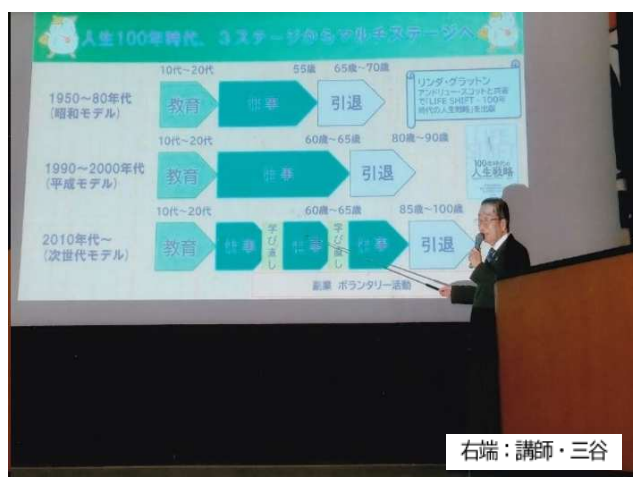
マナパス <https://manapass.jp/>



専門学校や大学・大学院などで本格的に学び直したい社会人向け講座が検索できるサイト。文部科学省が運営しています。ビジネス、語学、資格取得など実用性が高い講座のほか、趣味や教養も含む幅広い講座を紹介しています。

テキストのポイント4

テキストを使ったセミナー開催（神奈川県等の依頼で実施）また、職業訓練校のテキストとして活用されています。



右端：講師・三谷



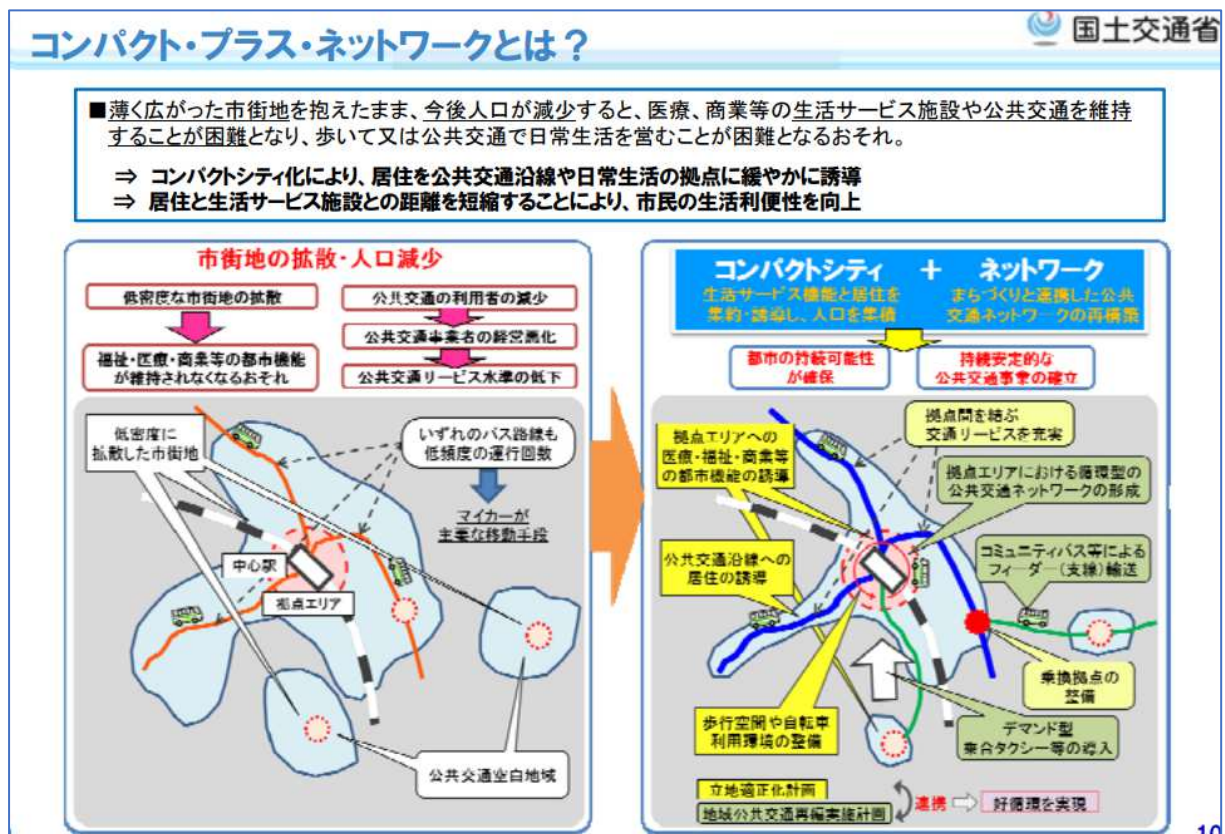
中央：講師・三谷

4. 解説：「コンパクトシティ」論の是非

令和6年能登半島地震の復旧・復興論の一つとして、「コンパクトシティ」論、あるいは「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」論を改めて散見するようになった。

筑波大学の谷口守教授によれば、「コンパクトシティという概念が誕生したのは1973年とのこと。アメリカのジョージ・ダンツィクとトーマス・L・サティが執筆した書籍に登場した言葉です。翌年には日本語にも翻訳されました。当時のコンパクトシティの意味は『街の便利な場所を有効利用しよう』といった内容であり、先述したような現在のコンパクトシティの在り方とは異なるものでした。その後、1980年代後半からノルウェーやオランダ、イギリス、ドイツなどの国が現在のスタイルである『土地利用と交通をセットで考える環境政策』を始めた。」「コンパクトシティの研究ベースの検討は90年代に基本的に終了し、2000年以降はその成果が周知されるとともに国土交通省や地方公共団体において検討が深まり、現在は既に第2ステージに入っているという。」
出典：コンパクトシティとは？メリット・デメリットや家を建てる時の注意点を解説 公開日 2023年10月18日 SUUMO <https://tinyurl.com/yur4ke4e>

このようなコンパクトシティ推進に向けて、2014年、都市再生特別措置法によって「立地適正化計画制度」が新たに創設され、その意義と役割の一つに「都市計画と公共交通の一体化：居住や都市の生活を支える機能の誘導によるコンパクトなまちづくりと地域交通の再編との連携により、『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』のまちづくりを進めます。」と謳っている。
出典：コンパクト・プラス・ネットワークのねらい 国土交通省 <https://tinyurl.com/yknw3fkw>



出典：コンパクト・プラス・ネットワークの推進について <https://www.mlit.go.jp/common/001170865.pdf>

これは、近年の総人口減少、経済活動縮退、財源力低下の流れの中で、「東京」以外の国土（地方/地域エリア）の衰退（消滅・森化等）をいかにコントロールするかという政策の流れと読める。つまり、コンパクトシティの狙いはいろいろ謳われているが要するに、行政サービスに要する「行政コストの縮減」のために効率よく行政サービス（公共交通の維持等）を提供できる居住地形成を誘導するものと云える。当然ながら、地方行政の規模等により、可能な行政サービスのレベルは変動する。住民が必要とする「生活の利便性」もまた変動・変容する。結果としての「居住地選択」がコンパクトシティに向かうか、そうでないかは住民の判断次第である。元々、日本の農山村地域は適疎に住んでいたのが、都市（住宅、工場等）のスプロール化により、住むのに適さない地域まで居住地等が拡大した。「生活の利便性」とは程遠い土地利用であったと云える。



出典：広島土砂災害から見た課題 | 月刊「事業構想」2014年10月号 <http://goo.gl/CUAdTn>

八木三丁目県営緑ヶ丘住宅上の土石流 写真提供：国土交通省国土地理院

総人口が減少するなか、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、そして、頻発する豪雨災害、さらに今回の能登半島地震等々、加えて、今後も繰り返されることが確実な自然災害の頻発化、激甚化、広域化、輻輳化の流れの中で、まずはそうした災害リスクの高いエリアの非居住化（結果としてのコンパクトシティ化）が急がれるべきである。

然るに、2019年台風19号被災地の内、7件14市町村のコンパクトシティのための居住誘導区域に超水や内水氾濫が発生している。「区域設定要件（災害リスクの少ない地域）」と相反する計画がなされている。持続可能なまちづくりに反している。

人はどこに住みたがるか。効率・便利さが全てではない。交通手段も変わる（ドローン等）。集約型都市構造は大災害時の被害も大きくする。「コンパクト」の意味が改めて問われている。



5. 読者の声

【読者の声1】 奇なる話 私の作詞作曲 国鉄職員の後半期 (作詞・作曲家 高橋育郎)

昭和 55 年になって、千葉までの線路増設工事がほぼ終わった。千葉駅の場合は、旅行センターが新設され、手小荷物扱い所を移転、そのあと信号所の仮移転があった。

この信号所の仮移転は、夏の約一か月間だったが、組合から冷房装置の要求があり、扇風機を増やすことで提案したところ、反対があつて揉めてしまった。

当時の組合(国労)は、全学連と組んで過激化し、好んで反対闘争を行なった。

私は、ここでも神経をすり減らした。そうしたエピソードのあったのち、房総運輸長付になった。房総地区管理の仕事で設備係担当になった。ところが、このころカラオケが盛んになり、中高年にもてはやされた。そこで、JTBは共催団体旅行に「唄と踊りの旅」を始めた。

そこで私は、団体旅行のマネージャーを委嘱された。

団体は400人で、会津方面の大型ホテルと組んで行い、私は事前に歌と踊りの曲名を聞いてプログラムを作り臨んだ。

大宴会は始まり、私は舞台の袖で、進行を務めた。

そこでハプニングがあった。「九段の母」を歌う方のテープが、絡まって鳴らせなくなり、急遽ホテルのものを借り、歌入りでなかったのが、私が歌を頼まれ舞台上で歌った。

宴会の最後は全員で「大東京音頭」だった。私はこれを見て、新シリーズの「唄と踊りの旅」に国鉄独自のオリジナルが欲しいとおもった。本社に問い合わせたが、そんなものは無いという。それなら、自分で作ってしまおうと「団体旅行音頭」を作詞して、局に提案したが「歌の提案はない」と拒否された。空しく事務所に戻ると、この春まで旅客課長をされていたNさんが見えていた。私は、早速その詩をみてもらった。Nさんは「これは面白い」といってポケットにしまい帰っていった。それから四・五日してNさんはキングレコード専属民謡歌手・上園茂を連れてやってきた。それは、この歌をレコード化したいとのことでの相談だった。題名を歌詞にあるとおり「しゅんしゅんいい旅夢の旅」としたいという。私は賛同し、二人は「では、これからキングに通知をしよう」と、満足げに帰っていた。それから10日ほどたったであろうか。Nさんは、事務所にやってきて、大声を張り上げて「高橋さんの歌が、キングから全国発売されることになりました」といった。

最初、読売が載せると、次々と出た。私はその都度、新聞社のインタビューを受けた。

発表会が浜名湖湖畔のホテルで行われ、品川発のお座敷列車で出かけた。上園茂とキングの踊の

社中一行が舞台上で歌い踊った。その晩のうちに後援会が三つほどできて、大盛り上がりの賑やかさだった。そのあと上園茂が添乗しての団体列車が次々繰り出され、私も添乗した。レコードは飛ぶように売れた。レコード化がきまったとき、キングのディレクターが局に挨拶にみえ、私は音楽著作権協会に入会を奨められ入った。

昭和 61 年、国鉄の分割民営化が決まったとき、記念のグッズをいろいろ発売した。中で、千葉局は大型グッズとして、初のお座敷電車を出した。そして、千葉県の花、菜の花にちなんで「なのはな号」と名付けた。これにテーマソングがほしいとなって、私は局長から指名を受けた。業務命令になって、私はかなりのプレッシャーを受けたが、何とか作詞し、これがクラウンに持ち込まれ、レコード化され、コロムビア専属の里見香華さんによって振りつけられ、発売された。

更に房総半島観光ソング「房総半島ひとめぐり」「ハッピーランド房総」の 2 曲をテープ化した。歌手は江戸川区平井の新人歌手だった。

こうして国鉄在職中（最後の一年は JR 東日本）に、4 曲がレコード化された。

そして、第二の人生に入った。

(つづく)

6. Blog 仕組みの群像：羽田空港衝突事故にみるスイスチーズモデルとレジリエンス

2024 年 1 月 2 日 17:47、羽田空港 C 滑走路で、着陸しようとした JAL516 便（エアバス A350）と、離陸待ち（能登半島地震対応の物資輸送目的）の海上保安庁の航空機（ボンバルディア DHC8 型）が衝突し、双方が炎上する事故が発生した。その事故発生前後の事実経緯が報道される中、「スイスチーズモデル」や「レジリエンス」を想起したので、現時点での情報を元に整理し、ブログにアップしました。

▼Blog 仕組みの群像 <https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>

7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月の pickup 情報

<https://japa-fellowlink.wixsite.com/covid-19>

▼世帯年収の違いによるコロナ禍の影響とその背景にあるデジタル化の恩恵の濃淡 ～「新型コロナウイルス感染症に関する世論調査（第3回）」の結果から③～ 公開：2024年1月1日 NHK
https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20240101_7.pdf

▼政権に切り捨てられた「コロナ専門家」たちの悲惨な末路…なぜ尾身も西浦も感謝されなかったのか《コロナ専門家はなぜ消されたのか》 2024.01.16 集英社オンライン
<https://gendai.media/articles/-/122981?imp=0>

▼日本のコロナ「専門家」はなぜ表舞台から消されたのか…有事での「専門家」と「政治家」の駆け引きから見た日本の政治システムの限界 2024.01.1 現代ビジネス
<https://shueisha.online/culture/190173>

8. 連携団体及び Japa からのご案内

▼Japa の会員募集

Japa は、会員 [正会員、一般会員]、連携団体を随時募集しています。

※ 正会員：入会金 1 万円、年会費 1 万円 一般会員：年会費 3 千円

お問い合わせ先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

9. つぶやき（編集後記に代えて）

横綱・照ノ富士が復活した。それにしても力強い。横綱挑戦の大関霧島を左手 1 本で持ち上げて投げ飛ばしていた。大関挑戦の琴ノ若も本割・優勝決定戦ともに横綱相撲で勝った。優勝後の一夜明けての会見で、若手に対して、「実力をつけて上がっていくことが一番大事。最近、1 場所 2 場所くらいで勢いが止まる。逆に、勢いだけでみんなが騒ぎすぎている部分がある」とクギを刺す場面もあったと報道 <https://tinyurl.com/yoq33lme> されているが、それは若手力士ではなく、マスメディアへのクギ刺し（皮肉）に聞こえるのだが。確かに、マスメディアがある意味で SNS 化（プロとしての劣化）しているのかもしれない。プロのメディア/ジャーナリストとしての矜持が欲しいものだが。どん底を味わった照ノ富士に見透かされている。寂しい、・・・。

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

問合せ・連絡先：info@japa.fellowlink.co.jp

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

Japa 開設・運営「新型コロナウイルス感染症 特設コーナー」

<https://japa-fellowlink.wixsite.com/covid-19>

コロナ禍発生（2019年12月）以降の国内外の関連情報を8つのカテゴリー分類（感染状況、時系列事象、参考情報、影響分析・提言等、文献・歴史、お役立ち情報、関連サイト）別に、時系列で、タイトル・URL・情報概要を整理（キュレーション）し、アーカイブしています。5類移行後もフォロー中です。ご活用ください。



Japa 設立・事務局「大磯地方創生事業推進コンソーシアム」（略称：大磯コンソ）

<https://www.oiso-conso.com/>

大磯コンソは、大磯町（神奈川県）をフィールドとして、地域課題解決型の新たな価値創造（イノベーション）と持続的な地方創生のためのプロジェクトを実践したい都市企業/ベンチャー/スタートアップ/起業者と地元関係者（地元企業/NPO等）がオープンに習い合い、連携し、繋がりを広げつつ、共創するプラットフォームです。都市企業等の参加をお待ちしています。



専門家個人が専門家として
居場所を得て活躍できる社会づくりをめざして

Japa 会員・連携団体 募集中！

Japaは、より多くの方々が会員としてならいあい習合・連携・共創できることをめざして
会員及び連携団体を随時募集しています。お問い合わせ・入会をお待ちしています。

入会案内：<https://www.japa.fellowlink.jp/admission>

